



▲EMを用いた桑栽培が行われている圃場(ビンフック省)

▼ゴミ処理場にてEM散布を行っている様子(ハノイ市)



▲都市ゴミからEMを用いて堆肥を製造している工場(ハノイ市)

ベトナムは、1986年のドイモイ（刷新）政策導入後、工業化をすすめ、安定した経済発展を遂げてきましたが、農業は重要な産業であり、今後の経済発展にとって最も重要な課題とされています。ベトナムの自然農法とEM技術の普及は、NGOであるビナニチセンター（以前は科学技術環境省の外郭団体）が行っています。同センターが勧めてきたEM技術の普及は、まず環境分野において大きな成果があり、ついで農業、水産分野への広がりを見せてきています。EM技術の有効性について、ハノイ農業大学やハノイ植物保護局等の大学・研究機関において継続的な試験が実施された結果、環境、農業、水産のいずれの分野においてもEM技術の有効性が実証されました。

環境分野では、都市ゴミ埋立場でのハエ・悪臭対策、ゴミ埋立場から出る廃水処理において著しい効果が見られたことから、現在では、同センターが現場レベルでの技術普及を進める一方で、科学技術省（2003年に科学技術環境省は、科学技術省と環境資源省に分離）は、各地の科学技術局と協力して環境分野、特にゴミ埋立場でのEM技術の利用を薦め、ゴミ埋立場やゴミ処理場でのEM使用が全国的に奨励され、EMの購入に必要な

資金の一部は政府からの補助が受けられるようになりました。この他、都市ゴミから堆肥を製造する分野でもEM技術の導入が進んでいます。現在、ベトナム国内の14都市がEMを使用して、ゴミ埋立場の悪臭対策と堆肥化を行っており、年々広がりを見せています。

農業分野に関しては、ハノイ市近郊のビンフック省において、自然農法とEM技術の導入が早くから進められ、作物、野菜、花卉栽培において収量の増加、品質の向上等の成果があり、また、家畜として農家で飼われている豚や牛の厩舎へEM散布することで悪臭が減り、多くの農家でその効果が認められています。

水産分野では、ベトナム北部のハイフォン市、中部の観光地古都フエ、南部のニャチャンをはじめ、沿岸部の各省においてエビ、魚の養殖にEMが導入され、収量の増加、水質改善等の成果を挙げています。

この他、同センターでは、優良事例視察を目的に毎年、自然農法とEM技術の実践者の中から参加者を募集し、タイへの研修視察旅行を行っています（2005年：2回で参加者68名、2006年3月までの延べ人数：346名）。